

EUR / JPY ユーロ円 月次レポート

前月振り返りと2026年8月の相場展望

発行日

August 4, 2026

対象期間

7月実績 / 8月展望

通貨ペア

EUR / JPY

発行頻度

Monthly

7月末レート（終値）

181.872

▼ -2.06%（7月月間騰落）

7月高値

187.468

7月安値

181.870

ECB金利

2.25%

BOJ金利

1.00%

今月のハイライト

7月は185.69円からスタートし月央に187.47円まで上昇したが、月末にかけて反落し181.87円で引け、月間-2.06%となった

ECBは7月23日に3金利を据え置き（預金金利2.25%、全会一致）。6月の利上げ後の影響を見極める姿勢を示した

日銀は7月30～31日に政策金利を1.00%で据え置き。植田総裁は先行きの利上げ路線を維持する考えを示した

月末にかけてドル円で7月31日に日米協調の円買い介入が実施され（財務省が8月3日公表）、その円高がクロス円に波及してユーロ円も下押しされた

8月 基本シナリオ レンジ

178 – 185円

ECB・日銀とも次回会合は9月。円相場と欧州指標が焦点（確率50%）

欧日政策金利差

1.25pp

ECB預金金利2.25% – BOJ1.00%。前月と同水準

始値

185.693

7月1日

高値

187.468

月中最高値

安値

181.870

月中最安値

月間騰落

-2.06%

-3.821円

7月の相場動向

7月のユーロ円は185.69円でスタートし、月央にかけて187.47円まで上昇する場面があった。もっとも、月末にかけては181.87円まで反落して引け、月間-2.06%となった。ECBが7月に据え置きを決め、ユーロの新規の買い材料に乏しかったことも上値を抑えた一因とみられる。

月末の下落は、ドル円主導の円高がクロス円全般に波及したことが背景にあるとみられる。ドル円では、7月31日に日米協調による円買い介入が実施された（財務省が8月3日に公表）ことが月末の急速な円高の主因となったとみられ、その影響がユーロ円にも及んだ。中東情勢に絡むエネルギー価格の動向は、引き続き両通貨圏のインフレ材料として意識された。

主要イベントの影響

EU ECB 7月23日 据え置き

3金利を据え置き（預金金利2.25%）、全会一致

6月の利上げ後の影響を見極める姿勢。ラガルド総裁は9月の判断に含みを残した

ユーロ圏の7月インフレ（HICP速報値）は前年比2.9%と、6月の2.8%から加速（7/31発表）。原油高が主因

JP 日銀 7月30～31日 据え置き

政策金利（無担保コール翌日物レートの誘導目標）を1.00%で据え置き、賛成多数（8対1）で決定

高田審議委員は追加利上げを求めて反対。植田総裁は会見に復帰した

植田総裁は物価上振れリスクに言及し、先行きの利上げ路線を維持する考えを示した

7月の総括

7月はECB・日銀がともに金利を据え置中、月末にかけての円高がユーロ円を押し下げた。ドル円で7月31日に実施された日米協調の円買い介入（財務省が8月3日公表）を主因とする円高がクロス円に波及したとみられ、月間-2.06%となった。ECBは6月に約2年ぶりの利上げを実施した後の据え置きで、ユーロの買い材料は限られた。8月は両中銀とも会合がなく、ユーロ円は円相場と欧州インフレ指標の影響を受けやすい。

8月の注目ポイント

8月はECB・日銀ともに会合が予定されていない（いずれも次回は9月）。ユーロ円は、ドル円主導の円相場と、ユーロ圏のインフレ・景気指標の影響を受けやすいとみられる。ラガルド総裁が9月の判断に含みを残しており、エネルギー価格が再び上昇すればECBの追加利上げ観測がユーロを支える可能性がある。一方、円買いが強まる局面ではクロス円全般が下押しされやすい。金利差の大きさから下値では押し目買いも入りやすいとみられる。

シナリオ別レンジ予測

強気	25%	欧州指標が底堅く ECBの追加利上げ観測が意識される	183 – 187円
基本	50%	両中銀とも会合がなく、円相場にらみのレンジ推移	178 – 185円
弱気	25%	円買いの強まりや欧州景気の下振れでユーロ円下落	174 – 180円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
ドル円主導の円高	中	円高	ドル円の下落がクロス円に波及すればユーロ円も下押しされやすい
ユーロ圏インフレの再加速	中	ユーロ高	エネルギー高が続けばECBの追加利上げ観測が強まり、ユーロが買われやすい
日銀の早期追加利上げ観測（9月）	中	円高	9月の追加利上げ観測が強まれば円買いが優勢となりやすい
ユーロ圏景気の下振れ	中	ユーロ安	景気減速が意識されればECBの利上げ観測が後退しユーロ売り

8月の見通し

基本シナリオは**178～185円のレンジ**（確率50%）とみている。ECB・日銀とも8月は会合がなく、ユーロ円は**ドル円主導の円相場と欧州インフレ指標**の影響を受けやすい。円買いが強まる局面では上値が重くなりやすい一方、金利差の大きさから下値は限定的との見方もある。エネルギー価格や欧州の景気指標に留意したい。

用語解説

ECB（欧州中央銀行）

ユーロ圏21カ国の中央銀行。6月に約2年ぶりの利上げを実施後、7月は据え置き。次回は9/10。

クロス円

米ドルを介さない円と他通貨の交換レートの総称。ユーロ円はドル円とユーロドルの動きに影響を受けやすい。

為替介入

政府・中央銀行が急激な為替変動を抑えるために外為市場で売買を行うこと。日本では財務省が権限を持つ。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。6月に1.00%へ利上げ後、7月は据え置き。植田総裁は利上げ路線を維持する考えを示した。次回は9/17-18。

政策金利 / 金利差

中央銀行が設定する**基準金利**。ECB預金金利2.25%とBOJ1.00%の差は1.25pp。

HICP

ユーロ圏の**消費者物価指数**。ECBが物価目標（中期的に2%）の基準とする指標。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。